

徳島県におけるクラウドファンディングを活用した

クビアカツヤカミキリ対策について

○渡邊崇人・中野昭雄

徳島県立農林水産総合技術支援センター

クビアカツヤカミキリ (*Aromia bungii*) は、中国、朝鮮半島、ベトナム北部などに生息する外来種である。二年一化性で発生し、成虫は 28mm~37mm と大型であり、名前の由来通り胸部（前胸背板）が鮮やかな赤色である。バラ科の樹木を宿主とし、原産地域ではモモ、アンズ、スモモの重要害虫である。国内では 2012 年 7 月に愛知県海部地域のサクラとウメで発生が確認された後、埼玉県、東京都、群馬県、大阪府、栃木県でも確認されており、生息地域の拡大に歯止めがかかっていない。徳島県内においても 2015 年に始めて成虫が確認されたが、主にモモ園における被害が激しく早急な対策が必要である。昨年(2016 年)、被害地域中のモモ園 3 園地で毎日手取りによる捕獲作業を行ったところ、合計で 554 頭の成虫が捕獲され、露地園においては 6 月 21 日~8 月 2 日まで発生が確認された。被害地域内にはその他にモモ園が 45 園地 (2016 年時点被害園 14 園地) 存在しており、さらなる大規模かつ高効率に成虫を捕獲しなければならない。

そこで徳島県では、クラウドファンディングにより研究・活動資金を調達し、網羅的な捕獲活動を行うこととした。クラウドファンディングとは、あるアイデアを実現させるために、インターネットを通じて広く一般大衆(クラウド)から資金調達(ファンディング)するという造語である。一般的には、ベンチャー起業等の新製品開発資金を調達するために行われることが多いが、最近では科学研究の資金調達にも活用されている。今回のクラウドファンディングでは、‘網羅的な捕獲活動のための資金’‘フェロモン剤の大量合成費用’‘殺虫剤の試験費用’として支援金を募った。その結果、約 555 万円の支援を頂くことができた。そこで、本年 7 月 1 日から学生ボランティアを募り、被害地域内での網羅的な成虫の捕獲活動を行った。その際に、成虫 1 頭あたり 500 円で買い取ることでモチベーションを向上させ、その購入費用として今回の支援金を活用した。その結果、ボランティアが 91 名集まり、合計で 1,400 頭を超える成虫を捕獲することができた。今後は、フェロモン剤の合成や殺虫剤の試験を行っていく予定である。

本講演では、徳島県でのクビアカツヤカミキリの対策状況に加えて、クラウドファンディングによる研究資金の調達についても議論したい。

Countermeasure for the red-necked longhorn beetle, *Aromia bungii*, utilized crowd-funding in Tokushima prefecture.

Takahito Watanabe・Akio Nakano

Tokushima Agriculture, Forestry, and Fisheries Technology Support Center